

第7期中野区環境審議会における意見の概要

(1) 脱炭素な暮らし・仕事・まちの実現と気候変動への適応

- 中野区で積算しない二酸化炭素排出量についても、区外に負担をかけているのであればその分も意識して削減する必要がある。
- 中野区は住宅からの二酸化炭素排出量が課題である。EU などでは既存の住宅や建築物に対して省エネ改修を義務づける、再エネ設備の導入を義務づける、大規模の建築物に関してエンボディドカーボンの算定を義務づけるなど、先進的な政策を打ち出している。これらは、今すぐ取り組めることではないが、建築、住宅を中心として、身近な対策が例として挙げられていると良いと思う。
- 自転車が安全に走行できる交通基盤が十分でないまま交通量が増えると、事故などの危険性が高まってしまうので、対策が必要である。
- 2030 年度の目標に向けて部門別の二酸化炭素排出量の削減率を示しているが、さらに取組ごとに細分化して優先順位を設けると良い。
- コージェネレーションはあくまで化石燃料を使用するものであるため、今後の技術革新の動向を捉え、適切な設備の導入を検討してほしい。
- LED 照明への切替でなく、不要な照明を抑える取組をして、星空が見えるようなまちにしてほしい。
- 建物の目指すべき省エネ性能について、2030 年度を見据えてさらに高く目標を設定するとともに、太陽光パネル、蓄電池、V2H に関する内容を記載すべきである。
- 現行の環境基本計画や脱炭素ロードマップに掲載している取組のうち、遅れているものや手薄になっているものを把握し、対応を行う必要がある。
- エコポイントに代わるデジタル地域通貨を活用した環境配慮行動へのインセンティブを行ってほしい。
- エアコンの熱を逃がさないくらいの断熱性能を向上させる取組やみどりの創出、熱反射を防ぐ取組が必要である。
- 国の次期エネルギー基本計画や温対計画の内容のうち、区の計画に反映できる内容については可能な限り記載できると良いのではないかな。
- 清掃職員など、常に外で業務を行う区職員についても熱中症対策を行う必要がある。
- みどりは熱中症対策にも有用のため、植物の価値を認めるような取組

を展開してほしい

- 暑さ対策のため、不要な水をまくような取組があっても良いのではないかな。

(2) 資源を大切に作る循環型社会の実現

- 循環型社会、サーキュラーエコノミーという新たな問題意識が高まってきている。建築物の解体技術や、建築物をどのように長く使っていくかといった視点も必要である。
- 既にごみの有料化を実施している自治体や、これから実現しようとしている自治体も多い。ごみの有料化については、区民に対する啓発や意識醸成だけではなく、もっと積極的に議論を進めていく必要がある。
- ごみの収集を有料化にするとリデュースへの行動につながるという調査結果がある。食品ロスの削減については、家庭でのしつけの効果が高いという研究もある。
- 端切れを使ったりサイクルは意識を啓発する上で有効である。
- 中野区のごみ分別アプリはわかりやすいので、アプリを通じた情報発信もしてほしい。
- 過剰梱包を抑制するための供給者への働きかけをしてほしい。
- 段ボールがリサイクルに出せることをさらに PR してほしい。
- 賞味期限と消費期限の違いがわかるようになると廃棄される食品が減ると思うので、さらに周知してほしい。
- 新築マンションや新築戸建てに引っ越してきた区民が、集積場所をすぐに把握できるよう、区がデベロッパー・建築事業者と連携をとって、町会長、自治会長に集積場所の確認をする、新しい集積場所の設置を依頼するといったことを徹底してほしい。
- 食品廃棄物は、事業系ごみの処理手数料が非常に安いので、食品リサイクル法で定めるリサイクルに回っていない。当該手数料をより高く設定すれば、食品廃棄物がリサイクルに回るようになり、分類の指導も入るため適正排出につながると考える。当該手数料の見直しを東京二十三区清掃一部事務組合に働きかけてほしい。
- 事業者のプラスチック適正排出に向けた取組について、事業者の話を聞きながら考える必要がある。
- 清掃車両について、EV 化だけでなくバイオ燃料の利用についても検討してほしい。
- 電池・バッテリーを内包する小型家電によるごみ収集車の火災が増え

ており、区民への周知啓発が必要である。

- 災害廃棄物処理マニュアル策定に向けた検討にあたっては、水害と震災とでは廃棄物の性状が異なるということに留意する必要がある。
- 災害廃棄物を減少させるためにも、日ごろから家にある退職品をリサイクルに出すことを推進してほしい。
- 建物の耐震化は災害対策だけでなく、災害廃棄物の削減につながる環境対策でもあるため進めてほしい。

(3) 快適に暮らせる美しいまちづくり

- カラスのごみの食い散らかしは美観的にも衛生的にもよくない。
- 公害に関する区への通報については、中野区公式 LINE を活用も検討してほしい。
- 太陽光パネルの設置が義務化されると反射光による光害が懸念される。
- 高齢化の進展に伴う空き家の増加が環境に与える影響は大きい。
- 空き家対策は建築分野だけでなく相続も要因となるので対策が難しい。
- 空き家やごみ屋敷における繁茂による電線への干渉の予防が必要である。
- 空き家における樹木等の繁茂を予防するために、剪定を定期的に行うことで、空き家の適正管理にもつなげられると思う。

(4) みどりや生きものの豊かさを育み、うるおいを生み出すまちの形成

- 雨水を地下浸透させるような取組もグリーンインフラとして必要である。
- みどりの量を増やすべきである。
- 再開発の際はなるべく木を残してほしい。
- できるだけ多様な種類の木を植えてほしい。
- 栄養循環を考慮してほしい。
- 緑被率という評価だけではなくて、そこにどれだけ木があるか、葉っぱがあるかということが大事だ。密に植える、枝をしっかり張らせ、木陰が広がるようにするということも考慮してほしい。
- みどりに関する目標を高く設定してほしい。
- 区内企業の自然共生サイトへの登録を目指し、区がサポートする体制を整えてはどうか。
- まちなか緑化の取組が広がってほしい。
- 東京都ではナラ枯れが問題となっている。

- 樹木による雨水の遮断機能に言及してほしい。また、雨庭を推奨してほしい。
- 既に生物多様性地域戦略を策定している区もあるので、中野区も策定してはどうか。
- 公園の樹木の名前をスマホで調べられる仕組みがあると若い世代に伝わると思う。
- 中野の生物多様性の環境を知るため、eBird などのデータベースを参考にしてみしてほしい。

(5) パートナリシップで広げる学びと行動のしくみづくり

- コンポストや不耕起農業など、温室効果ガスの発生の形態を多様な側面で見えていく必要がある。
- 以前、区にあった環境リサイクルプラザのような啓発や区民団体の活動拠点になる施設がほしい。
- 環境教育の講座について、300 円相当のポイントがもらえると積極的に参加するという調査結果があるので、デジタル地域通貨を活用してポイントを付与できると参加者が増えると思う。
- 小学校の校庭を人工芝ではなく天然芝にしてほしい。
- 東京都環境公社など連携などをして教育の機会を増やす、SNS による情報発信を行う、副読本のようなものを作成するといった。
- 区民と区が対等・相互補完的な関係性を保ち施策を進めることが重要である。
- 無作為抽出した区民による気候区民会議のようなものを開催して、環境意識の醸成や関心が薄い区民の見方を取り入れてほしい。
- 区内企業と連携できるといい。
- 東京都環境公社の HP に環境学習のコンテンツがあるので活用してほしい。
- 環境活動に取り組んでいる企業を区が情報発信・表彰することで活動を後押ししてほしい。
- 杉並や練馬など緑の多い近隣区と連携をして、みどりを体験できる機会をつくってはどうか。
- SDGs パートナーとの連携を進めてほしい。